

- 4, 説明を受けたあとで不安に思ったこと
- ・もっと詳しく説明してほしい 1名
 - ・パンフレットがほしい 2名
 - ・不安に思わなかった 3名
 - ・聞いていた副作用とは違う副作用がでた 1名
 - ・無回答 3名

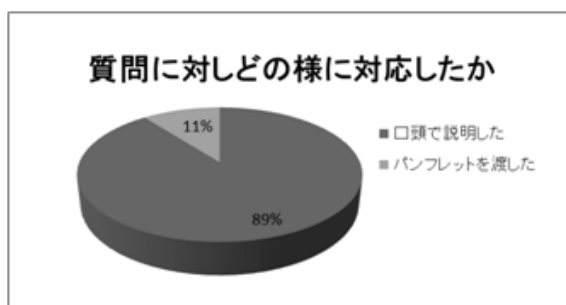
看護師18名のアンケート結果

1, 副作用について質問を受けたことがある

- ・はい 18名
- ・いいえ 0名

2, 副作用に対しどの様に対応したかでは、

- ・口頭で説明した 16名
- ・パンフレットを用いて説明した 2名



患者説明時不安に思うこと（自由回答）

- ・具体的な説明ができない
- ・口頭で説明したのできちんと忘れずできたか心配
- ・マニュアルがほしいと思った・自分の知っている知識だけでは不安
- ・DrNs間で統一した説明ができていないか不安
- ・脱毛著明時のシャンプーの品種を聞かれ返事に困った
- ・かつらの値段を聞かれた。

V 考察

今回化学療法を受けている患者を対象としたアンケートでは、「不安に思わない」と回答した人が3割だったことからそれ以外の患者は自信を持って不安でないと言えない何らかの不安を抱いているのではないかと考える。また、副作用が複数で内容が様々なことは患者の疾患・治療内容・治療段階・治療期間などは限定せず行った結果と考えられる。

看護師アンケート結果では副作用について全員が質問を受けていることから、化学療法を受ける患者にとって副作用は関心の高いことであると感じた。副作用に対しどの様に対応したか？という問いでは、口頭で説明したとの回答が約9割であることから、全ての看護師の説明内容が統一されているかどうかは不明である。患者が副作用症状に対して正しく最善の方法で対処できるためには指導内容を統一させることが大切であると感じた。「もっと詳しく

説明してほしい」「聞いていた副作用と違う副作用症状が出た」の意見からは不安が軽減できていないことから、患者の反応を見ながら丁寧に指導する十分な時間が必要と考える。看護師アンケートで「自分の知っている知識だけでは不安」「具体的な説明ができなかった」「口頭での説明だったので忘れずに対応できるか心配」「マニュアルがほしいと思う」などの意見から患者が混乱しないためにも統一したマニュアルが必要である。

現在使用しているパンフレットは各製薬会社で作成された物で、患者へ説明し渡すことで完結してしまっていて、その後のフォローやサポートを継続的に見ていくことが出来ていないように感じた。現在のパンフレットをもっと活用できるように、患者自身に自宅での様子を記録できるようにしてもらい来院時に副作用への対処、不安に思ったことを確認しパンフレットを用いて指導していく。その後の副作用への対処や不安状況を経過的に見ていき確認評価し、他職種と共にカンファレンス等の場を通して患者サポートし患者のセルフケア向上に努めることが出来るよう援助していきたいと考える。

おわりに

化学療法患者は、自分の疾患と向き合い治療を受け、副作用を自分なりにセルフケアしながら生活している。看護師は患者の不安を増強させないように、自己効力感をもてるような関わりをする必要があるが、これまでは自宅での状態やセルフケアを確認し、評価することが出来ていなかった。今後は、説明内容を医師・看護師・薬剤師・栄養士等チームで共有し、連携して援助していくことが出来る体制を構築していく必要があると考える。

参考文献

濱口恵子・本山清美 がん化学療法ケアガイド 中山書店

化学療法患者への副作用に対する 今後の課題

長崎県五島中央病院 3階南

○小林すみれ 出口友夏 小浦麻美 平山めぐみ 川上知美
江口美子 小村ツルヨ

1 はじめに

近年化学療法は、術前術後の補助療法、延命治療、症状緩和やQOLの向上など様々な目的、あらゆるがん種に対して行われており、重要な位置を占めている。診療報酬の改定により、入院から外来・在宅化学療法へ移行しているケースも多く、患者や家族の病気・治療に対する理解や副作用の予防・早期発見・対処ができるようセルフケア能力を高める援助が医療者にも求められている。

当病棟では、2年前より入院患者だけでなく、外来患者も病棟にて看るようになり、化学療法患者に関わる機会が増えてきた。

患者への副作用の説明や、出現時の対処法についての指導は、医師、薬剤師、看護師よりそれぞれ説明がされていたが、患者が出現した副作用に対して不安を感じていないか疑問が生じ、また看護師も患者説明時の対応方法の難しさを感じていた。

今回、アンケート調査を行い、看護師・患者の副作用に対する不安に思うことを調査し、明確にすることで、今後の看護へ発展させていきたいと考え研究を行った。

2 目的

化学療法患者の出現した副作用に対する不安を明らかにし、その対処法を導き出すことができる。

3 方法

・研究期間

平成25年5月～平成25年12月

・研究方法

アンケートにて質問用紙法のデータ収集

対象者：看護師18名、患者10名

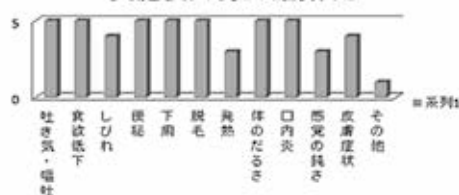
・倫理的配慮

口頭と文書にてアンケートによって個人が特定されないこと、研究情報は本研究以外に使用しないこと、回答者に不利益が生じないことを条件に協力依頼し、了承を得た。

4 結果

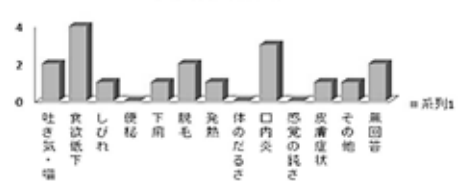
患者アンケート①

化学療法 実施後出現した副作用



患者アンケート②

不安や対応法について聞きたい と思う副作用



患者アンケート③

●副作用に対する説明を受けた後で不安に思ったこと

- もっと詳しく説明をしてほしかった 1名
- パンフレットが欲しかった 2名
- 不安に思わなかった 3名
- 聞いていた副作用とは違う症状がでた 1名
- 無回答 3名

看護師アンケート①②

①副作用について質問を受けたことがあるか

- 「はい18名」
- 「いいえ0名」

②副作用の質問に対しどのように対応したか

- 「口頭で説明した16名」
- 「パンフレットを用いて説明した2名」

看護師アンケート③

患者説明時に不安に思うことは

- 「具体的な説明ができない」
- 「口頭で説明したのできちんと忘れずできたか心配」
- 「マニュアルが欲しいと思った」
- 「自分の知ってる知識だけでは不安」
- 「Dr-Ns間で統一した説明が出来ているか不安」

5 考察

現在使用しているパンフレットは患者へ説明し渡すことで完結し、その後のフォローやサポートを継続的に看ていくことが出来ていなかった。

現在のパンフレットを活用し、患者自身に自宅での様子を記録してもらい来院時に副作用への対処、不安に思ったことを確認し指導していく。患者の副作用への対処や不安状況を経過的に見ていき確認評価し、他職種と共にカンファレンス等の場を通して患者サポートし、患者のセルフケア向上に努めることが出来るよう援助していく。

6 おわりに

化学療法患者は、自分の疾患と向き合い治療を受け、副作用を自分なりにセルフケアしながら生活している。

看護師は患者の不安を増強させないよう、自己効力感をもてるような関わりをする必要がある。これまでは自宅今後は、説明内容を医師・看護師・薬剤師・栄養士等チームで共有し、連携して援助していくことが出来る体制を構築していく必要がある。

参考文献

- 濱口恵子・本山清美
- がん化学療法ケアガイド
- 中山書店

御清聴ありがとうございました

